

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおいにぎわいのある親しまれる港づくり		2年度事業・施策評価結果			責任者 総務部 広報・にぎわい振興 担当課長	連絡先 052-654-7947 総務課、行政管理課	
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト				
事務事業名	名古屋港のPR		継続	維持	縮小			
目的	対象(誰・何を)	県民市民、一般来港者、港湾関係者					事業 期間	昭和26年度～
	意図(どういう 状態にしたいか)	名古屋港の取組、施策、状況、特徴や変化について広く関心や理解を得られる状態にする。						
概要	練習帆船・汽船等の誘致・一般公開を実施するとともに、「海の日名古屋みなと祭」開催に協力する。また、印刷物・広報番組・広報紙の作成・製作、港務艇による港内見学「みなと体験ツアー」の開催、ホームページの運営及びSNSを活用し、PRを実施する。						根拠 法令等	
令和3年度の実施予定	汽船「青雲丸」「大成丸」「銀河丸」の誘致・一般公開の実施、「海の日名古屋みなと祭」及び「冬のイベント」開催への協力、印刷物「Port of Nagoya」「要覧」「ようこそなごやこうへ」「わたしたちの名古屋港」を作成する。広報番組「What's 名古屋港」・広報紙「広報なごや港」・新聞広告の製作、「みなと体験ツアー」の開催、ホームページの運営及びSNSを活用したPRを実施する。また、本組合設立70周年事業として、記念式典の開催、年史の編纂、帆船「日本丸」「海王丸」の同時寄港の誘致を実施する。						実施義務 □ 有 □ 無	
							関連 シート	

2 DO(実施)

令和3年度に実施した 内容・結果	帆船(2隻)及び汽船(3隻)の誘致、「海の日名古屋みなと祭」開催に代わる「サプライズ花火」及び「冬のイベント」開催への協力、印刷物「Port of Nagoya」「要覧」「ようこそなごやこうへ」「わたしたちの名古屋港」の発行を行うとともに、広報番組「What's 名古屋港」(3回)・広報紙「広報なごや港」(4回)・新聞広告(14回)の製作、ホームページ及びSNS(Facebook, Instagram, Twitter, YouTube)の運営・Instagramフォトコンテストの開催、「みなと体験ツアー」(4回)・PRイベントの実施や民間活力による花火イベントの調整協力、設立70周年事業(式典、年史、帆船2隻同時寄港)を行った。 帆船・汽船の一般公開及び「海の日名古屋みなと祭」開催への協力は、新型コロナウイルス感染症(以下「感染症」という。)の影響により実施できなかった。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	63,292	31,606	48,693	47,864	令和2年度からの事業費の増加は、設立70周年事業及びサプライズ花火を実施したことによるものである。令和元年度からの事業費の減少は、令和2年度に引き続き、帆船・汽船の一般公開及び「海の日名古屋みなと祭」が開催中止となったことが主な要因である。
人件費	千円	82,566	82,449	81,000	82,005	
合計	千円	145,858	114,055	129,693	129,869	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
Facebook及びInstagramページ投稿へのいいね等の数(件)	目標	17,000	23,000	24,000	26,000	名古屋港の関心を測る指標として本組合公式Facebookに加え、令和2年度からは公式Instagramページの投稿記事へのいいね等のリアクション数も設定した。目標値は過去実績を踏まえ着実な向上を目指して設定した。	通信環境、情報提供媒体の変化
	実績	22,900	21,881	30,115			
(単年度管理型)	事業進捗状況(3年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
船舶一般公開見学者数(人)	目標	7,700	7,700	7,700		目標値は、平成29年度の110周年を除いた過去5年間(平成24～28年度)の合計値(38,390人)の平均(38,390人÷5年間≒7,700人/年間)	季節、天候、感染症、寄港席数及び実施内容
	実績	17,509	-	-			
(単年度管理型)	事業進捗状況(3年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	Facebook及びInstagramページ投稿は、情報発信の強化を推し進めるため、従来から実施しているFacebook広告や名古屋港水族館との連携に加え、新たに投稿スケジュールを作成し効果的な発信に努めるとともに、フォロワー数の増加を目的としたInstagramフォトコンテストを実施した。こうした取組を継続してきたことにより、各媒体のフォロワー数も着実に増加しており、それに伴い投稿へのいいね等の数も増加し、目標を上回る実績となった。 船舶一般公開見学者数は、感染症の影響により一般公開は実施できなかった。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	名古屋港のPRは港湾管理者である本組合が主体的に取り組むべき事業と考える。加えて、民間事業者等の意見を取り入れながら港の認知度向上に資するように努めていく必要がある。				
有効性	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○					
効率性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○	名古屋港への理解を深め、関心を高めることは施策目標の達成には必須の条件と考える。				
	期待どおりの成果が得られているか?	○	Facebook及びInstagramページ投稿へのいいね等の数については、目標値の約25%増となり、期待以上の成果が得られた。				
	最小のコストとなっているか?	○	既存のイベントを最大限に有効活用しながら事業の実施が図られたと考える。				

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	縮小	成果は、取組を継続し目標達成を目指すことから「維持」とする。コストは、練習帆船の寄港が1隻となるため「縮小」としたが、名古屋港への関心を高め、理解が深まるよう、引き続き取り組む必要がある。
	資源(財・人)の投入を減らしながら、取組を継続し、成果を維持する必要がある。		
課題			4年度以降の取組
利用者にとって、わかりやすく伝わりやすい情報発信とするための工夫や方法、利用者ニーズへの柔軟な対応が必要である。また、感染症の状況を踏まえ、イベント開催の可否を判断するとともに、イベント開催時における感染症の感染防止対策の実施が必要である。			情報発信の強化や、更なる効果的なPRを行っていくため、多様なニーズの把握に努めるとともに、それらに対する的確な情報発信の工夫を図っていく。また、感染症の状況に応じ感染防止対策を適切に実施し、にぎわい創出に取り組んでいく。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおい・にぎわいのある親しまれる港づくり	2年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 水族館事業担当課長
施策名	うらおいと魅力のある港湾空間の形成	成果	コスト			
事務事業名	名古屋港水族館の振興	継続	拡大	拡大	連絡先 連携課	052-654-7816
目的	対象(誰・何を)	広く一般の利用者			事業 期間	平成18年度～
	意図(どういう 状態にしたいか)	海洋文化の普及に努める。				
概要	水族に関する知識を広め、水族への親しみを深めることにより、県民・市民の自然環境に対する意識の高揚を図るとともに、健全な余暇の活用に資する名古屋港水族館の振興を図る。				根拠 法令等	指定管理者による公の施設の管理に関する条例、名古屋港水族館条例
令和3年度の実施予定	引き続き、新型コロナウイルス感染症(「以下、感染症」という。)の影響を考慮し、水族の飼育・繁殖・展示を行い、施設を良好に管理していく。 名古屋港水族館事業運営計画(中長期計画)策定に向け、委託調査を実施し取りまとめる。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
					関連 シート	

2 DO(実施)

令和3年度に実施した内容・結果	令和2年度に引き続き、換気の強化や繁忙期の事前予約制の実施など感染症拡大防止対策を実施した。感染症の影響により利用料金収入が減少し、施設の維持に必要な経費が不足したため、指定管理料を支出したが、令和2年度よりも指定管理料は減少した。特別展について、昨年度は開催できなかったが、今年は、展示を分散し密集を防ぎながら海洋環境問題をテーマとした参加型の特別展「豊かな海をいつまでも～旅する水とめぐる海洋ゴミのいま～」を開催した。クラウドファンディングの実施や市内観光施設、地元企業等と連携するなど、水族館のPRに取り組んだ。名古屋港水族館中長期計画基礎調査を委託し、調査結果を取りまとめた。優先順位を定め施設を補修するとともに、施設の老朽化に伴う今後の補修のあり方について、愛知県、名古屋市と連携し検討を開始した。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	898,448	1,130,401	1,051,965	1,026,938	令和2年度は、感染症の影響により管理運営に必要な料金収入が不足し、管理運営経費の不足額を本組合が負担したため、事業費が増加している。
人件費	千円	39,448	39,392	38,700	39,180	
合計	千円	937,896	1,169,793	1,090,665	1,066,118	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因	
入館者数(万人) (単年度管理型)	目標	220	220	225	230	指定管理者の目標値を参考に、直近3年の最高値(H29:約220万人)を2%上回る225万人を令和3年度目標値とする。		
	実績	200	92	132				
来館者の満足度(%) (単年度管理型)	目標	80	80	83	85	平成30年度の満足度(80%)を3%上回る83%を令和3年度目標値とする。 来館者のアンケート実施結果		
	実績	98	—	99.5				
事業進捗状況(3年度)	事業進捗状況(3年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値と釣り 目標値を下回る				
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	入館者数については、昨年度よりも増加したものの、目標は達成できなかった。 また、来館者の満足度については、目標80%に対し、99.5%と非常に高い評価を得た。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価に関する説明							
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○					親しまれる港づくりを推進するため、本組合が関与する必要があると考えている。また、広く一般の利用を対象として海洋文化の普及に努めており、利用者ニーズや社会環境に適合している。	
有効性	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○					入館者数は、目標値を大きく下回ったが、コロナ禍においても魅力ある港湾空間の形成と海洋文化の普及に貢献している。	
効率性	期待どおりの成果が得られているか?	△						
効率性	最小のコストとなっているか?	○					施設の維持修繕等は優先順位を定め、最少のコストで最大の効果が得られるよう努めている。	

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
	継続	拡大 拡大	海洋文化の普及を図り、イベントの開催や積極的なPRにより、入館者数を回復する必要があるため成果は「拡大」とする。 名古屋港水族館事業運営計画策定に伴う委託調査の実施や、3年度に引き続き、指定管理料の支出が必要となるため、コストは「拡大」とする。 なお、4年度は入館者数増加を見込むことから、指定管理料支出額は3年度に比べ減少が予想される。
課題			4年度以降の取組
来館者が安全・安心に観覧できるよう、引き続き、感染症の拡大防止対策を継続していく必要がある。 コロナ禍における入館者数の回復策や新たな財源確保の方策を検討していくとともに、水族館を広く一般の利用者に対して継続してPRしていく必要があります。 水族館の老朽化に伴う補修費の増加が、本組合の財政の負担となっている。			サービス水準の維持・向上を図るため、引き続き、モニタリング等を実施し管理運営状況を把握するとともに、感染症を原因とする収支不足については指定管理料を支出する。 入館者数増加、収入増加の方策を財団と連携して取り組む。また、開館30周年記念事業や企業と連携したイベントの開催により、今後の施策成果目標(交流施設の来場者数)達成に向けて集客に努めていく。 事業運営計画(中長期計画)策定、施設の老朽化への対応について、愛知県、名古屋市と連携し、全庁的に取り組んでいく。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		2年度事業・施策評価結果			責任者 建設部 金城・中川・南5区担当 課長	
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト			
事務事業名	金城ふ頭における交流拠点開発の円滑な推進		継続	維持	維持	連絡先 052-654-7978	
目的	対象(誰・何を)	金城ふ頭				事業 期間	平成29年度～
	意図(どうい う状態にしたいか)	物流機能との共存を図りながら、交流拠点開発を円滑に推進する。					
概要	名古屋市のモノづくり文化交流拠点構想の具体化を図るため、レゴランド・ジャパンを核とした複合開発に協力しており、今後もレゴランド・ジャパンの拡張や国際展示場第1展示館の移転等が予定されていることから、物流機能との共存を図りながら、交流拠点開発を円滑に推進する。					根拠 法令等	
令和3年度の 実施予定	物流機能と共存した交流拠点開発について、名古屋市と連携し、国際展示場関連の工事や大規模イベント時の交通対策について、港湾関係者の意見を踏まえながら調整を行う。					実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
						関連 シート	

2 DO(実施)

令和3年度に実施した 内容・結果	国際展示場新第1展示館やコンベンション施設及び歩行者デッキの工事について、港湾関係者へ工事の概要説明や月間工程を送付するとともに、大規模イベント時における交通対策等について、名古屋市と連携し、港湾関係者の意見を踏まえながら調整を行った。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	0	0	0	0	
人件費	千円	11,926	11,926	11,700	11,851	
合計	千円	11,926	11,926	11,700	11,851	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
港湾関係者等の意見に対応した割合(%) (単年度管理型)	目標	100	100	100	100	交流拠点開発に伴う港湾関係者等からの意見・苦情等に対応した割合 対応した件数/意見・苦情等の件数×100 (意見・苦情等が0件の場合は100%とする)	
	実績	100	100	100	100		
事業進捗状況(3年度)				目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
目標							
実績							
事業進捗状況(3年度)							
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	港湾関係者からの意見等について、関係部署や名古屋市等と調整し対応した。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性 本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？ 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか？	○	物流機能との共存を図りながら、名古屋市等とともに交流拠点開発を円滑に推進する必要がある。					
有効性 事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？ 期待どおりの成果が得られているか？	○	交流拠点開発が推進されることにより、うるおいと魅力のある港湾空間の形成や、更なるにぎわいの創出が期待される。					
効率性 最小のコストとなっているか？	○	最小限の人員で対応している。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	金城ふ頭は港湾物流の拠点でもあることから、引き続き、物流との共存を図りながら交流拠点開発を推進し、うるおいと魅力のある港湾空間を形成する必要があるため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			4年度以降の取組
交流拠点開発は、物流機能への影響がないよう進めていく必要がある。			物流機能と共存した交流拠点開発について、名古屋市や関係部署と連携し、国際展示場関連の工事や新第1展示館開業後の大規模イベント時の交通対策について、引き続き、港湾関係者の意見を踏まえながら調整を行っていく。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおいにぎわいのある親しまれる港づくり		2年度事業・施策評価結果		責任者	企画調整室 環境担当課長	
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト			
事務事業名	魅力ある港湾景観の形成		継続	維持	維持	連絡先 052-654-7892 連携課 港営課・管財課	
目的	対象(誰・何を)	名古屋港内の景観				事業 期間	平成5年度～継続
	意図(どういう 状態にしたいか)	ロマンと活気にあふれた港づくりをめざして、魅力ある良好ものにしていく。					
概要	臨港地区内の建築物等の景観について、名古屋港景観基本計画及びカラー計画マニュアルと整合が図られるよう事業者と調整した。また、名古屋港の歴史を物語る景観資源(歴史資源)の適正な管理に努める。					根拠 法令等	
令和3年度の実施予定	臨港地区内行為届出等の際に、カラー計画マニュアルや景観アドバイザー制度を紹介し、建築物の配色等について、計画に整合するよう協力を要請する。 また、歴史資源の維持管理マニュアルを作成する。 名港トリトンのライトアップの今後のあり方を検討するとともに、既存設備の維持補修を行う。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
							関連 シート

2 DO(実施)

令和3年度に実施した 内容・結果	名古屋港カラー計画について10件の審査を行い、景観アドバイザー制度について2件の相談を受けた。 名港トリトンのライトアップの今後のあり方を検討した。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	28	6,528	641	2,399	名港トリトンのライトアップは、耐震補強工事にともない、名港中央大橋と名港東大橋において休止しているため電気使用料等の事業費が減少した。また、名古屋港景観基本計画に係る審査件数等の減少により、人件費が減少した。
人件費	千円	3,670	7,339	6,300	5,770	
合計	千円	3,698	13,867	6,941	8,169	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	中間目標 4	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
カラー計画マニュアル との整合率(%) (単年度管理型)	目標	100	100	100	100	臨港地区内行為の届出等において、建築物等がカラー計画マニュアルと整合するように調整できた件数の割合を指標とする。(企業色や整合する既製品がない場合は対象外とする。) カラー計画マニュアルとの整合件数/審査件数×100(%)	
	実績	100	54	50			
事業進捗状況(3年度)				目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
歴史資源5施設の維持管理 マニュアル作成率(%) (進行管理型)	目標	40	60	80	100	歴史資源5施設のうち維持管理マニュアルを作成した施設の数の割合(%)を指標とする。	
	実績	20	80	80			
事業進捗状況(3年度)				順調	やや遅れ・遅れ		
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	カラー計画マニュアルの整合率は、協力を得られなかった事業者もあった(10件中5件)ため、目標値を下回った。 歴史資源施設の維持管理マニュアルは当初目標どおり進んでおり順調である。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○					
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ 「うるおいと魅力のある港湾空間の形成」に貢献しております。景観審査におけるカラー計画との整合率は下回りましたが、カラー計画への整合について周知・要請により、協力する事業者がいることから、成果は得られている。歴史資源の維持管理マニュアルについては当初目標どおり作成が進んでおり、歴史資源の適切な維持管理が図られている。					
	期待どおりの成果が得られているか?	○					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 事業者からの相談に応じて、アドバイザーに相談している。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	引き続き、魅力ある景観づくりに取り組んでいく必要があるため。 なお、3年度の状況は「目標値を下回る」となったが、成果については、事業者の協力によることから「維持」とし、コストも「維持」とする。
課題		4年度以降の取組	
引き続き新たな建築物等について、カラー計画との整合が図られるよう事業者に説明していく必要がある。また、カラー計画マニュアルや景観基本計画については、事業者の協力が得られるよう、計画内容の検証をする必要がある。国の登録有形文化財である歴史資源の維持管理方法について、マニュアルを作成する必要がある。また、名港トリトンライトアップのあり方について、関係者と検討していく必要がある。		事業者が新築・改築の手続きを行う際、カラー計画を認識する機会を増やすよう、検討・調整を進めていく。カラー計画マニュアルや景観基本計画について、これまでの成果や課題を分析するなど、計画内容の検証を行っていく。また、国の登録有形文化財である歴史資源の維持管理方法について、関係機関と調整を図りながら維持管理マニュアルの作成作業を進めていく。 また、名港トリトンライトアップの今後のあり方について、引き続き関係者で検討を重ねていく。	

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおいにぎわいのある親しまれる港づくり		2年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 関連事業担当課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト			
事務事業名	名古屋港ポートビルの管理・運営		継続	拡大	拡大	連絡先 連携課	052-654-7836
目的	対象(誰・何を)	広く一般の利用者				事業 期間	平成18年度～
	意図(どうい う状態にしたいか)	海事に関する知識の普及により、海事思想の高揚を図る。					
概要	名古屋港ポートビル及び南極観測船ふじの良好な維持管理と高質な利用者サービスを提供する。					根拠 法令等	指定管理者による公の施設の管理に関する条例 名古屋港ポートビル条例
令和3年度の 実施予定	感染症の拡大防止対策を実施した上で、海事に関する企画・展示を行い、海事に関する知識の普及に努める。 また、webを活用し、名古屋港ポートビル及び南極観測船ふじの魅力を、広く発信する。 感染症を原因とする収支不足については指定管理料を支出する。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連 シート	

2 DO(実施)

令和3年度に実施した 内容・結果	感染症拡大防止対策を実施した上で、海洋博物館においては学芸員によるガイドツアーの実施や、企画展「名古屋海洋博物館のお宝展～今年は南極特集～」、「ボトルシップ展」、「ペーパークラフト教室」を開催する等、海事に関する企画・展示を行い、海事に関する知識の普及に努めた。 また、環境問題についての特別展を名古屋港水族館と同時開催し、ガーデンふ頭内の回遊性の向上に資する取組を行った。 加えて、名古屋港ポートビル及び南極観測船ふじの魅力をより広く発信するため、名古屋港水族館のfacebookとの連携等SNSを利用した情報発信に努めた。 感染症の影響により、利用料金収入の回復は途上であり、施設の維持に必要な経費が不足したため、指定管理料を支出した。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	148,110	128,817	129,772	135,566	令和2年度は、感染症の影響により管理運営経費の不足額を本組合が負担したものの、工事費が令和元年度と比較し減少したため、減少している。 令和3年度は、令和2年度と比較し管理運営経費の不足額の負担額は減少したものの、工事費が増加したため、微増となっている。
人件費	千円	4,679	4,672	4,590	4,647	
合計	千円	152,789	133,489	134,362	140,213	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
入館者数(万人) (単年度管理型)	目標	46	46	47	48	指定管理者の目標値を参考に、平成30年度の入館者数(46万人)を3%上回る47万人を令和3年度の目標値とする。	天候、景気、感染症
	実績	45	15	25			
事業進捗状況(3年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
来館者の満足度(%) (単年度管理型)	目標	80	80	83	85	平成30年度の満足度(80%)を3%上回る83%を令和3年度の目標値とする。 来館者のアンケート実施結果	
	実績	85	-	85			
事業進捗状況(3年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	入館者数は令和2年度より回復したものの、感染拡大による、緊急事態措置、まん延防止等重点措置等の影響を受け目標は達成することはできなかった。 来館者の満足度は、目標を上回っており、意見についても概ね好評であった。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 海事に関する知識の普及は、本組合として必要と考える。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっていないか?	○ また、広く一般の利用を対象としており、ニーズに込えている。					
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ コロナ禍においても海事に関する展示を通じた、海への親しみと知識の普及に貢献している。					
	期待どおりの成果が得られているか?	△ 入館者数は令和2年度より回復したものの、感染症の影響により目標を下回った。					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 施設の維持修繕等は優先順位を定め、最小のコストで最大の効果が得られるよう努めている。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
	継続	拡大	
資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。			成果は、入館者数を回復する必要があることから「拡大」とする。コストは、3年度に引き続き、指定管理料の支出が必要であるため「拡大」とする。 なお、4年度は入館者数等の増加を見込むことから、指定管理料支出額は3年度に比べ減少が予想される。
課題			4年度以降の取組
感染症拡大前の水準から減少した入館者数を回復するため、来館者が安全・安心に観覧できるよう、引き続き、感染症の拡大防止対策を継続し、海事に関する知識の普及に取り組む必要がある。			サービス水準の維持・向上を図るため、引き続き、モニタリング等を実施し管理運営状況を把握するとともに、感染症を原因とする収支不足については指定管理料を支出する。 また、引き続き、webを活用し、施設の魅力を広く発信するとともに、経費の削減についても取り組む。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおいにぎわいのある親しまれる港づくり		2年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 関連事業担当課長
施策名	うらおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト		
事務事業名	名古屋港湾会館の管理・運営		継続	拡大	連絡先	052-654-7836
目的	対象(誰・何を)	港湾関係者、船員その他海事関係者を始めとした利用者			事業 期間	平成18年度～
	意図(どうい う状態にしたいか)	文化及び教養の向上と福祉の増進を図る。				
概要	名古屋港湾会館の良好な維持管理と高質な利用者サービスを提供する。				根拠 法令等	指定管理者による公の 施設の管理に関する条 例 名古屋港湾会館条例
令和3年度の 実施予定	感染症の拡大防止対策を実施した上で、施設の良好な維持管理、高質な利用者サービスの提供に努める。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
					関連 シート	

2 DO(実施)

令和3年度に実施した 内容・結果	感染症の拡大防止対策を実施した上で利用促進に努め、2,016件の利用があった。 感染拡大による、緊急事態措置、まん延防止等重点措置等の期間において、感染症の拡大防止を理由とするキャンセルに伴う減収分等について、指定管理料を増額した。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	66,042	72,212	62,068	66,774	令和元年度より、施設整備費を本件費用に計上している。令和2年度は、感染症対策費等を負担したため、事業費が増加した。 令和3年度は、令和2年度よりも感染症対策費等の負担額が減少したため、事業費が減少した。
人件費	千円	3,761	3,756	3,690	3,736	
合計	千円	69,803	75,968	65,758	70,510	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
会議室の利用率(%) (単年度管理型)	目標	33	33	34	35	平成30年度の利用率(33%)を1%上回る34%を令和3年度の目標値とする。 (利用率: 利用コマ数 ÷ 総コマ数)	感染症
	実績	32	21	27			
	事業進捗状況(3年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る		
目標							
実績							
事業進捗状況(3年度)							
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	会議室の利用率は、既存利用者への再利用の促進など、稼働率向上に努め、令和2年度より利用率は回復したが、感染症を理由とするキャンセルや自粛の影響により、目標を下回った。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	○	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？ 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか？					
有効性	○	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？					
効率性	△	期待どおりの成果が得られているか？					
○	最小のコストとなっているか？						
○	施設の維持修繕等は優先順位を定め、最小のコストで最大の効果が得られるよう努めている。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	拡大	拡大	成果は、利用率を回復する必要があることから、「拡大」とする。コストは、3年度に引き続き、指定管理料の増額が見込まれるため「拡大」とする。 なお、4年度は、感染症の拡大防止を理由とするキャンセルの減少を見込むことから、指定管理料支出額は3年度に比べ減少が予想される。
	資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。		
課題			4年度以降の取組
安全・安心に利用できるよう、引き続き、感染症の拡大防止対策を継続していく必要がある。 また、経費削減に取り組むとともに、コロナ禍においての利用率の向上に向けた周知や、営業等に取り組む必要がある。			サービス水準の維持・向上を図るため、引き続き、モニタリング等を実施し管理運営状況を把握するとともに、感染症の拡大防止を理由とする減収分等については、指定管理料を増額する。また、施設の良好な維持管理、高質な利用者サービスの提供に努める。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		2年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 関連事業担当課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト			
事務事業名	臨港緑地の管理・運営		継続	維持	維持	連絡先	052-654-7836
目的	対象(誰・何を)	広く一般の利用者				事業期間	平成18年度～
	意図(どうい う状態にしたいか)	にぎわいや憩いの空間を提供する。					
概要	臨港緑地の良好な維持管理と高質な利用者サービスを提供する。					根拠 法令等	指定管理者による公の 施設の管理に関する条 例 名古屋港管理組合臨港 緑地条例
令和3年度の 実施予定	臨港緑地の提供及び施設を良好に管理しながら、コロナ禍での安全な利用に努める。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連 シート	

2 DO(実施)

令和3年度に実施した 内容・結果	屋内施設に消毒用アルコールを設置する等の感染症防止対策を行うとともに、臨港緑地の提供及び施設の良好な管理を行いながら、安全に利用できるように努めた。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	510,669	349,752	325,451	395,291	前年度に比べ改修工事が減ったことにより、事業費が減少した。
人件費	千円	28,531	28,491	27,990	28,337	
合計	千円	539,200	378,243	353,441	423,628	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
利用者数(万人)	目標	56.2	56.8	57.5	目標値を 上回る 目標値を 下回る	58	指定管理者の目標値を参考に、平成30年度の野球場、テニスコート、運動広場、サイクリングロード、マリンパーク(魚釣り含む)及びゴルフ場の利用者数(52万人)を10%上回る57.5万人を令和3年度の目標値とする。	天候、感染症
	実績	52.6	57.6	62.8				
(単年度管理型)		事業進捗状況(3年度)						
利用者の満足度(%)	目標	76	77	78	目標値を 上回る 目標値を 下回る	80	平成30年度の満足度(75%)を3%上回る78%を令和3年度の目標値とする。 利用者へのアンケート実施結果	
	実績	83	78	78				
(単年度管理型)		事業進捗状況(3年度)						
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)		利用者数は、コロナ禍により人との密になりにくい屋外施設に人が流れたことで目標値を上回った。 利用者の満足度は、ほぼ目標どおりの評価を得た。						
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	<input type="radio"/>	港湾の緑地を整備し運営することは、港湾管理者の責務であり、本組合の関与が必要と考える。また、運動施設・緑地等の管理・運営により、港のにぎわいと憩いの空間の創出につなげている。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/>						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	<input type="radio"/>	コロナ禍により人との密になりにくい屋外施設に人が流れたことで利用者数は目標を上回り、施策達成に貢献している。					
	期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>						
効率性	最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/>	施設の維持修繕等は優先順位を定め、最小のコストで最大の効果が得られるよう努めている。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	港湾の緑地を整備し運営を行っていくことは、港湾管理者の責務であり、また、運動施設・緑地等の管理・運営により、港の賑わいと憩いの空間の創出に繋げる必要があるため、「成果」、「コスト」ともに維持とする。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			4年度以降の取組
感染症の拡大防止対策を継続し、効率的な施設の維持管理及び安心して利用してもらえるように指定管理者に指導・助言していく必要がある。			サービス水準の維持・向上を図るため、引き続き、モニタリング等を実施し管理運営状況を把握するとともに、施設の良好な維持管理と高質な利用者サービスの提供及び感染症の拡大防止対策に努めるとともに、イベントを実施することで多くの方に利用してもらえるよう、指定管理者に対し指導・助言を行う。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		2年度事業・施策評価結果		責任者 建設部 事業推進課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト	
事務事業名	中川運河緑地(堀止地区)整備事業		継続	維持	維持
目的	対象(誰・何を)	中川運河(堀止地区)			連絡先
	意図(どういった状態にしたいか)	人びとが港の雰囲気を味わうことのできる水辺空間を整備し、地域環境の向上を図る。			052-654-7921
概要	整備場所:名古屋市中川区運河町、中村区運河町 内容・規模:「親しまれるみなと」を実現するため、市街地の貴重な水辺空間に緑地を整備する。用地を造成し、水辺周辺一帯を緑地(1.1ha)として整備(用地・護岸、緑地)する。 全体事業費:9.9億円(令和2年度12億円から変更) 事業手法:防災・安全交付金事業(令和2年度より港湾環境整備事業)			事業期間	平成20~令和4年度
令和3年度の実施予定	水辺一体の緑地整備として、植栽、照明等を行う。			根拠法令等	名古屋港港湾計画 中川運河再開発基本計画 中川運河再生計画
				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
			関連シート		

2 DO(実施)

令和3年度に実施した内容・結果	水辺一体の緑地整備として、植栽、照明等を行った。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	合計	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	13,113	26,712	18,806	58,631	
人件費	千円	1,651	1,283	2,160	5,094	
合計	千円	14,764	27,995	20,966	63,725	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	最終目標	4	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因	
整備面積(ha) (進行管理型)	目標	0.84	0.86	1.07	1.1	整備面積は、事業費による換算数量である。	周辺地区再開発	
	実績	0.84	0.86	1.07				
	事業進捗状況(3年度)			順調・やや遅れ・遅れ				
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	目標					ささしまライブ24地区の土地区画整理事業等と一体的な整備を進めており、堀止西側の緑地については、平成29年4月1日に供用を開始し、予定通り順調に進捗している。		
	実績							
	事業進捗状況(3年度)			順調・やや遅れ・遅れ				
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か? 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/>	堀止に隣接するささしまライブ24地区の土地区画整理事業等と連携して地元のニーズを取り込みながら整備を進め、地域環境の向上を図る必要がある。					
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>	平成29年4月1日から緑地の一部を供用開始しており、人びとが港の雰囲気を味わうことのできる水辺空間を整備し地域環境の向上を図ることは、上位施策である「うるおいと魅力ある港湾空間の形成」に貢献すると考えておりません。本事業の進捗状況としては、順調に進んでいる。					
効率性	最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/>	堀止に隣接するささしまライブ24地区の土地区画整理事業等と連携して効率的に整備を進め、コスト削減に努めている。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	人々が港の雰囲気を味わうことのできる水辺空間を整備し、地域環境の向上を図る必要があるため。
取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。			
課題		4年度以降の取組	
名古屋市関連事業と調整を図りながら一体的な緑地整備を進める必要がある。		堀止周辺の整備を行っている名古屋市関連事業と連携して、引き続き、親水緑地の整備を進めていく。	

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		2年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト			
事務事業名	中川運河水質改善事業		延伸	維持	維持	連絡先	052-654-7921
目的	対象(誰・何を)	中川運河		事業期間			平成26～令和5年度
	意図(どうい う状態に したいか)	中川運河の水循環を促進し、市民等が水辺を不快なく散策できる水環境の創出を図る。					
概要	整備場所:名古屋市中区運河町、中川区西日置 内容・規模:中川運河の水循環を促進するため、松重ポンプ所の改修、露橋水処理センターからの高度処理水の活用(吐出管設置)、並びに掘止における深場の埋戻し(覆砂)を実施する。 全体事業費:18.1億円 事業手法:社会資本整備総合交付金事業(令和2年度より港湾環境整備事業)		根拠法令等				
令和3年度の 実施予定	松重ポンプ所の改修(ポンプ棟基礎工事)を行う。		実施義務			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
			関連シート				

2 DO(実施)

令和3年度に実施した 内容・結果	松重ポンプ所の改修(ポンプ棟基礎工事)に着手した。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	合計	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	12,358	97,829	98,000	208,187	
人件費	千円	1,651	1,283	2,160	5,094	
合計	千円	14,009	99,112	100,160	213,281	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	最終目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
事業の進捗状況 (全7工程)	目標	4	4	4	7	以下の項目のうち完了した工程数を合計する。 【①調査 ②事業採択 ③設計(松重ポンプ所改修) ④吐出管設置(高度処理水活用) ⑤設計(掘止深場埋戻し(覆砂)) ⑥掘止深場埋戻し(覆砂)整備 ⑦松重ポンプ所改修】	
	実績	4	4	4			
(進行管理型)	事業進捗状況(3年度)		順調・やや遅れ・遅れ				
	目標						
	実績						
	事業進捗状況(3年度)		順調・やや遅れ・遅れ				
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	予定通り順調に事業が進捗している。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性 本組が関与し、どうしてもやらなければならない事業か? 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/>	港湾管理者として、中川運河再生計画に基づき松重ポンプ所の改修等を行い、水質改善に取り組んでいく必要がある。					
有効性 事務事業の目的は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>	中川運河の良好な水環境の創出は、上位施策である「うるおいと魅力のある港湾空間の形成」に貢献すると考えている。 本事業の進捗状況としては、順調に進んでいる。					
効率性 最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/>	関係行政機関、学識者を交えた委員会により経済性を踏まえて策定した施策であり、今後も事業実施に向けコスト削減に努めていく。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	中川運河の水循環を促進し、市民等が水辺を不快なく散策できる水環境の創出を図るため。
課題	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
4年度以降の取組			
中川運河水質改善施策を推進するためには、関係者とのさまざまな調整が必要である。また、本線や支線について効果を確認していく必要がある。			地元住民に説明を行いながら、着実に事業を進めていく。また、松重ポンプ所改修後は放水量増加による効果を確認していく。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおい・にぎわいのある親しまれる港づくり	2年度事業・施策評価結果			責任者 建設部 金城・中川・南5区担当 課長
施策名	うらおいと魅力のある港湾空間の形成	成果	コスト		
事務事業名	海上交通ネットワークの形成	継続	維持	維持	連絡先 052-654-7978
目的	対象(誰・何を)	金城ふ頭、ガーデンふ頭、中川運河、堀川			事業 期間 平成30年度～令和4 年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	港内の各地区間や港と背後地域を結ぶ、新たな交流の道筋となる“水の交流軸”の形成を図る。			
概要	中川運河、堀川を利用し、歴史資産、観光拠点をめぐる海上交通ネットワークの形成を図る。				根拠 法令等
令和3年度の 実施予定	海上交通ネットワークの形成を図るため、金城ふ頭の小型栈橋の整備に着手する。また、水上交通の誘導を進める名古屋市と連携・調整していく。				実施義務 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
					関連 シート

2 DO(実施)

令和3年度に実施した 内容・結果	海上交通ネットワークの形成を進めるため、利便性の向上に向け、金城ふ頭小型栈橋の整備に係る関係者との調整を行った。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	33,118	34,056	0	22,391	
人件費	千円	10,091	10,077	9,900	10,023	
合計	千円	43,209	44,133	9,900	32,414	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	最終目標	4	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
金城ふ頭小型栈橋整備 の進捗状況 (全4工程) (進行管理型)	目標	2	3	3	4	4	以下の項目のうち完了した工程数を合計する。 【①基本計画 ②基本設計 ③実施設計 ④整備】	関係者 の意向
	実績	2	3	3				
	事業進捗状況(3年度)				順調・やや遅れ・遅れ			
	目標							
	実績							
事業進捗状況(3年度)								
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)		金城ふ頭小型栈橋の整備に向け、関係者との調整に時間を要したものの、調整の結果、令和4年度に工事着手できることとなった。						
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	<input type="radio"/>	うらおいと魅力ある港湾空間の形成のためには、海上交通ネットワークの形成を進める必要がある。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/>						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	<input type="radio"/>	金城ふ頭の小型栈橋の整備により、海上交通ネットワークの形成に向けて、利便性を向上させることができる。					
	期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>	工事に係る調整の結果、関係者の理解が得られており、成果が得られている。					
効率性	最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/>	コストが最小になるよう事業を進めている。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	利便性の向上を図りながら海上交通ネットワークの形成を進め、うらおいと魅力のある港湾空間を形成するため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			4年度以降の取組
海上交通ネットワークの形成に際しては、利便性を向上していく必要がある。また、水上交通の誘導を進める名古屋市と連携・調整していく必要がある。			海上交通ネットワークの形成を進めるため、利便性の向上に向け、金城ふ頭小型栈橋工事を実施する。また、水上交通の誘導を進める名古屋市と引き続き、連携・調整していく。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおいにぎわいのある親しまれる港づくり		2年度事業・施策評価結果		責任者 港営部 誘致推進課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト	
事務事業名	クルーズ船誘致の推進		継続	維持	維持
目的	対象(誰・何を)	クルーズ船			連絡先 052-654-7835
	意図(どうい う状態にしたいか)	名古屋港へのクルーズ船の寄港増加に向けた取組を進め、港の魅力や親しみの向上を図る。			連携課 危機管理課、関連事業室、 海務課、港湾管理事務所
概要	名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議で策定した「名古屋港クルーズ船誘致に向けた行動計画」に基づき、クルーズ需要喚起に向けた情報発信や魅力発信に取り組む。			事業 期間	平成6年度～継続
令和3年度の 実施予定	ホームページやフェイスブック等のSNS等を活用し、クルーズ需要喚起に向け、クルーズ船寄港情報等を発信するとともに、クルーズ船に対する信頼や安心を回復するため、クルーズ船受入時における新型コロナウイルス感染症(以下「感染症」という。)対策など、安全・安心の取組を県民・市民に対し情報発信します。また、船社に対してはこの地域の観光施設等で実施されている感染症対策について情報発信する。			根拠 法令等	
				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
				関連 シート	

2 DO(実施)

令和3年度に実施した 内容・結果	フェイスブック等のSNSを活用し、クルーズ船入出港について発信した。また、ホームページにてクルーズ船の入港予定のほか、「名古屋港におけるクルーズ船受入の際の感染拡大予防マニュアル」(以下「本港マニュアル」という。)の改訂情報並びに国、関係団体及び船社の安全・安心の取組の情報発信を行うとともに、船社に対しては、この地域の観光施設等で実施されている感染症対策について情報発信を行った。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	843	93	55	330	令和2年度及び3年度について、感染症の影響により国内外におけるセールス活動等が例年通り実施できなかったことから事業費が減少している。
人件費	千円	17,889	17,864	17,550	17,768	
合計	千円	18,732	17,957	17,605	18,098	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
情報発信数(件)	目標	10	30	33	40	一般市民向けにSNS等を活用したクルーズ船情報等発信数	感染症
	実績	10	15	20			
(単年度管理型)	事業進捗状況(3年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	目標					感染症の影響により外航クルーズ船が再開されなかったこと及び国内クルーズの寄港回数が減少したことにより情報発信数は目標に及ばなかったが、クルーズ需要喚起に向け、クルーズ船入出港時の情報発信を行った。また、本港マニュアル改訂時には適切なタイミングで情報を更新するなど本組合、国、関係団体及び船社の安全・安心の取組を広く発信するとともに、船社に対しては、この地域の観光施設等で実施されている感染症対策について発信できた。	
	実績						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ クルーズ船の誘致推進は港湾管理者である本組合が主体的に取り組むべき事業と考えます。港の認知度向上に資するように努めていく必要がある。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○					
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ クルーズ船への親しみを深め、関心を高めることが施策目標の達成には必須の条件と考える。そのためにも、クルーズ船に対する信頼や安心を回復する必要がある。令和3年度はコロナ禍においても16隻の国内クルーズ船を受け入れることができ、うるおいと魅力のある港湾空間の形成に貢献していると考えます。					
	期待どりの成果が得られているか?	△ 感染症拡大の影響により、令和3年度は国内クルーズ船16隻の受入にとどまったことから目標値を下回った。					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 実施にあたっては直接的な支出を抑えて行っている。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	感染症の影響により外航クルーズ船の運航が再開されなかったこと及び国内クルーズ船の寄港回数が減少したことにより、SNS等を活用した情報発信数は「目標値を下回る」となった。方向性を判断した理由は、状況の回復を見据え、港に「にぎわいを創出すべくクルーズ船誘致を進める必要があるため。なお、成果については、引き続き目標達成を目指すことから「維持」、コストも「維持」とした。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			4年度以降の取組
外航クルーズ船の運航再開にあたり、国等のガイドラインに基づき、本組合の受入マニュアルを策定するとともに、外航クルーズ船に係る本組合、国、関係団体及び船社の感染症対策など安全・安心の取組を広く発信する必要があります。			クルーズ船について、外航クルーズ船の運航再開にあたり国等のガイドラインに基づき本組合の受入マニュアルを策定するとともに、引き続き、本組合、国、関係団体及び船社の感染症対策など安全・安心の取組を広く県民・市民に対し情報発信していく。また、船社に対しては引き続きこの地域の観光施設等で実施されている感染症対策について情報発信を行い、名古屋港へのクルーズ船誘致を行うとともに、感染症の状況を注視しつつクルーズ需要喚起に向けた情報発信にも取り組んでいく。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		2年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 誘致推進課長
施策名	うらおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト		
事務事業名	クルーズ船乗客の安全で円滑な受入対応		継続	維持	拡大	連絡先 052-654-7835
目的	対象(誰・何を)	クルーズ船乗客		事業 期間	平成6年度～	連携先 危機管理課、関連事業室、 海務課、港湾管理事務所
	意図(どういう 状態にしたいか)	乗客が安心して名古屋港で乗下船したり寄港地観光等に向かうことができるよう、クルーズ船寄港時の受入態勢を整え、適切に対応する。				
概要	クルーズ船運航船社や関係官庁等と協議の上、必要な受入態勢を整えるとともに、港湾運送事業者等、他の利用者の状況も踏まえ、ふ頭全体で安全で円滑な対応ができるよう取り組む。				根拠 法令等	
令和3年度の 実施予定	新型コロナウイルス感染症(以下「感染症」という。)の状況を注視しつつ、仮設テントやフェンス等を利用して会場設営を行うとともに、警備員の配置、シャトルバスの運行、感染拡大予防措置等、クルーズ船の寄港状況に合わせた受入対応を検討・実施する。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
					関連 シート	

2 DO(実施)

令和3年度に実施した 内容・結果	国内クルーズ船については、「名古屋港におけるクルーズ船受入の際の感染拡大予防マニュアル」(以下「本港マニュアル」という。)に基づき、発熱等の症状がある乗客を隔離するためのテントの設置及び乗船時に岸壁への一般見学者の立入制限など感染症対策を徹底し、船社・関係機関と連携しながら安全・安心なクルーズ船の受入れを行った。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	9,062	1,681	2,471	4,405	令和2年度及び令和3年度については外航クルーズ船の運航が再開されておらず、国内クルーズ船のみの受入れとなったため全体としては事業費が減少している。
人件費	千円	17,889	17,864	17,550	17,768	
合計	千円	26,951	19,545	20,021	22,172	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
受入対応に起因する事 故件数(件)	目標	0	0	0	0	0	クルーズ船の受入対応を業務として遂行する上で、安全かつ円滑に取組むことが第一と考える。本組合が取組むクルーズ船受入対応に起因する事故件数を0件にすることを目標とする。	
	実績	0	0	0				
(単年度管理型)	事業進捗状況(3年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る			
	目標							
	実績							
	事業進捗状況(3年度)							
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	受入れに起因する事故件数は0件で、目標を達成することができた。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	○	クルーズ船の受入対応は港湾管理者である本組合の事業であり、乗客の安全、円滑な受入を適切に実施することが求められる。						
有効性	○	クルーズ船寄港時の受入体制を整え、適切な感染症対策等を実施することで、船社及び乗客に対し安全な港としてPRすることができ、クルーズ船の寄港増加につながるものとする。						
効率性	○	1年分の発注をまとめて行うことで1寄港当たりの費用を抑えるよう努めて実施している。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	拡大	本港マニュアルに基づき、引き続き感染症対策の費用が必要となることに加え、ガーデンふ頭3号岸壁改良工事の影響に伴う外航クルーズ船の2号岸壁着岸や国内クルーズ船の金城ふ頭着岸の増加に備え、安全対策に係る費用が新たに必要となるためコストは「拡大」とし、より安全で円滑な受入れに努めていく。なお、成果は事故を0件とすることから「維持」とする。
	資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、適切な成果の状況を維持する。		
課題		4年度以降の取組	
外航クルーズ船は、税関・出入国管理・検疫が必要となり、感染症対策として対人距離確保のため従来よりも広いスペースが必要となるため、運航再開にあたっては国等のガイドラインに基づく適切な受入対応が求められる。さらに、ガーデンふ頭3号岸壁改良工事の影響に伴い2号岸壁や金城ふ頭での受入対応が求められる。		国内クルーズ船の本港マニュアルに基づく受入対応の継続に加え、外航クルーズ船の運航再開に備え、船社・関係機関と連携しながら適切な対応を行っていく。さらに、ガーデンふ頭3号岸壁改良工事の影響に伴う受入について、2号岸壁や金城ふ頭における安全で円滑な対応を行う。	